



< 観光dxの成功事例は? >

観光DXの成功事例

国内外の成功事例をいくつかご紹介します。

1. エリア全体のキャッシュレス化・情報集約（和歌山県白浜町）

和歌山県白浜町では、観光客の利便性向上と地域消費の促進のため、エリア全体のキャッシュレス化を推進しました。

取り組み: 交通機関、宿泊施設、飲食店、お土産店などで共通のキャッシュレス決済システムを導入。これにより、現金を持ち歩く必要がなくなり、観光客はスムーズに買い物を楽しめるようになりました。

成果: 決済データが蓄積され、観光客の行動パターンや消費動向を分析できるようになりました。そのデータをもとに、より効果的な観光プロモーションやサービス改善が可能になりました。

2. スマートバス停と情報配信（北海道・札幌市）

札幌市では、バス利用の利便性向上と新たな観光体験の創出を目指し、スマートバス停を設置しました。

取り組み: 従来のバス停にデジタルサイネージを導入し、リアルタイムの運行情報や周辺の観光スポット情報を多言語で表示しました。また、QRコードを読み取ると、観光ルートの提案や飲食店のお得なクーポンが受け取れるようにしました。

成果: バス利用のストレスが軽減されただけでなく、バスを待つ間に新たな観光情報に触れる機会が増え、観光客の周遊を促進しました。

< 観光dxの成功事例は >

観光DXその他の成功事例

パーソナライズされた旅の提案 (Airbnb) : Airbnbは、ユーザーの検索履歴や好みに基づいて、宿泊施設や体験アクティビティをパーソナライズして提案しています。これにより、ユーザーは自分だけの特別な旅を見つけやすくなります。

デジタルガイドの活用 (美術館・博物館) : スマートフォンアプリやAR (拡張現実) を活用したデジタルガイドを導入する美術館や博物館が増えています。作品にカメラをかざすと解説が表示されたり、著名人の音声ガイドが聞けたりするなど、より深くアートや歴史を学べるようになりました。

ドローンを使った空撮ツアー (ハワイ) : ハワイの一部のツアー会社では、ドローンを使って観光客の空撮映像を撮影し、旅の思い出として提供しています。これにより、SNSでの拡散が促され、新たな顧客獲得につながっています。

これらの事例からわかるように、**観光DXは単なるデジタル化ではなく、「観光客の体験価値を高める」ことを目的**としています。データ分析やテクノロジーを活用することで、よりパーソナライズされた、スムーズで快適な旅の提供が可能になります。

観光DXの成果を測る主な指標



< 観光DXの成果を測る主な指標 は？ >

観光DXの成果を数値で評価する場合、主に以下の3つの視点から指標を設定します。

観光客の行動変容・エンゲージメント

デジタルマップやウェブサイトのクリック数・PV数: 情報発信の効果を測る指標。例：月間クリック数が271回増加。

アプリのダウンロード数・利用者数: サービスの利用率を示す指標。

SNSの「いいね」やシェア数: 観光地の話題性を測る指標。

キャッシュレス決済の利用率: 決済の利便性向上や経済効果を測る指標。

経済効果

来訪者数・再来訪率: 観光地への集客力を測る指標。

一人あたりの消費額（客単価）: 消費行動の活性化を測る指標。

宿泊日数: 滞在期間の延長効果を測る指標。

ROI（投資対効果）: 投じた費用に対してどれだけの収益があったかを測る指標。

効率化・満足度

窓口対応時間の削減率: 業務効率化の効果を測る指標。

観光客アンケートの満足度: サービスの質や観光体験の向上を測る指標。

観光DXの成果を測る主な指標



| 事例 | 取り組み | 数値化した成果（例） |
|------------|-------------------------|---|
| 観光地の周遊促進 | デジタルマップと連動した情報発信とクーポン配布 | ・ デジタルマップのクリック数が 271回/月 増加 ・ クーポン利用による周遊率が **〇〇% 向上 |
| Web広告による集客 | 観光客の位置情報に基づいたWeb広告配信 | ・ 広告から予約・来訪につながった CVR （コンバージョン率）が 0.5% から 7.4% に向上 |
| 観光消費の活性化 | 共通キャッシュレス決済システムの導入 | ・ 決済データに基づいた分析で、一人あたりの消費額が 〇〇円** 増加 |
| 業務効率化 | 観光施設のオンライン予約システムの導入 | ・ 窓口での対応時間が **30%** 削減 |

観光DXの成果を測る主な指標



< 観光DXの成果を測る主な指標 は？ >

重要なポイント

指標の多様性: 観光DXの成果は多岐にわたるため、売上や来訪者数だけでなく、満足度や業務効率化といった複数の指標を組み合わせる評価することが重要です。

長期的な視点: DXは短期的な効果だけでなく、地域のブランド価値向上や持続的な活性化といった中長期的な成果を目指すものです。したがって、短期間の数値比較だけでなく、**経年的な変化を追っていく必要**があります。

データの連携と分析: 成功の鍵は、集めたデータを単なる数値として見るだけでなく、**観光客の行動パターンや消費動向を分析**し、次の施策に活かすことです。

このように、**観光DXの成功は単一の指標では測れず、目的に応じた複数の指標を設定し、データを継続的に分析・活用することで、より大きな成果へとつながっていきます。**

<観光におけるQRコードの活用事例は？>

観光分野におけるQRコードの活用は、多岐にわたる課題を解決し、**観光客の利便性や体験価値を向上させるための重要なツールとなっています**。ここでは、具体的な活用事例をいくつかご紹介します。

1. 情報提供と多言語対応

観光スポットの解説: **観光地の看板や案内板にQRコードを設置**。観光客がスマートフォンで読み取ると、その場所の歴史や文化、見どころに関する詳細な情報（テキスト、画像、動画）にアクセスできます。これにより、紙のパンフレットを削減し、多言語での情報提供も容易になります。

美術館・博物館のガイド: **美術館や博物館の作品の横にQRコード**を設置し、詳細な解説や音声ガイドを提供します。これにより、来場者は自分のペースで、より深く作品を理解できます。

飲食店・店舗の情報: **飲食店のメニューや店舗情報にQRコード**を付けて、多言語のメニューやクーポン情報を提供します。

2. 周遊促進とスタンプラリー

デジタルスタンプラリー: 地域の複数の観光スポットにQRコードを設置し、スマートフォンで読み取ることでスタンプを集める **デジタルスタンプラリー**を実施します。スタンプを集めると、特典や景品と交換できる仕組みにすることで、観光客の周遊を促し、新たな発見を促します。

観光ルートの提案: バス停や駅にQRコードを設置し、読み取ると **おすすめの観光ルートや交通情報**、周辺の飲食店情報などを表示します。これにより、観光客はスムーズに移動し、効率的に観光を楽しめます。

観光におけるQRコードの活用



<観光におけるQRコードの活用事例は？>

3. 決済とチケット購入

キャッシュレス決済: 観光地のお土産店や飲食店、交通機関などで、**QRコード決済**を導入します。これにより、現金を持ち歩く手間が省け、スピーディーな支払いが可能になります。
チケットレス入場: 観光施設やイベント会場のチケットをQRコード化し、スマートフォンに表示することで、チケットを印刷する手間が省けます。また、入場時の混雑緩和にもつながります。

4. 業務効率化

アンケートの実施: 観光客にQRコードを通じてアンケートを実施することで、紙のアンケート用紙の配布・回収の手間が省け、データ集計も容易になります。

受付・チェックイン: 宿泊施設や観光施設の受付に**QRコード**を設置し、自動チェックインを可能にします。これにより、人件費の削減や顧客の待ち時間短縮につながります。

5. その他のユニークな活用例

AR（拡張現実）体験: QRコードを読み取ると、スマートフォンの画面上にCGキャラクターが表示されたり、歴史的な建物を再現したARコンテンツが表示されたりするなど、エンタメ性の高い体験を提供します。

迷子対策: テマパークやイベント会場で、**子供にQRコード付きのリストバンドを着用**させることで、迷子になった際に、保護者に素早く連絡できるシステムを構築する事例もあります。

これらの事例からわかるように、QRコードは単なる情報の提供だけでなく、決済、エンターテインメント、業務効率化など、観光の様々な場面で活用されています。**QRコードは、観光客の利便性を高め、よりパーソナルな体験を提供するための重要なツール**と言えるでしょう。